

# 大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局  
 大阪市中央区道修町3-3-10  
 大阪屋道修町ビル3F  
 06-6232-1095

## 橋下市長の教育介入を斬る！講演会に53名

### 桜宮高校事件『学校改革は生徒が主人公』

4月11日(木)アイクルの部屋において、講演会を開催し53名が参加しました。

弁護士の伊賀興一さんに桜宮高校事件の本質を語っていただきました。伊賀さんは、生徒こそ主人公、「参加、共同、自治」の精神を確立してはじめて改革が実現する、それができることを教えてくれたのが桜宮高校でしたと講演をしめくりました。講演終了後は手作り料理で懇親会。多くの質問と意見が飛び交いました。

〔講演要旨〕

講師：伊賀興一さん(弁護士・自由法曹団大阪支部長  
 「桜宮高校から体罰をなくし、改革をすすめる会」仮代表)

私は大阪で弁護士をして、今年で38年になりますか。いろんなことをしてきましたが、今回桜宮高校のかかわりというのは、自分にとってもすごい経験になりました。桜宮高校と私とは縁もゆかりもないのですが、橋下市長の介入によって、かかわらずにはいられなくなりました。

橋下市長が「桜宮高校は大阪の恥である。もし教育委員会が入試を実行するならば、私は予算を執行停止する」という記者会見をやっていたのが、1月17日にテレビで映ったのです。議会の議決を経た予算を市長が専権と定めるなんてことはできないのです。翌日昼に弁護士有志が声明をもって教育委員会に行くというところから始まったのです。

1時間懇談をしました。そのとき同席された保護者の方が、クラブも禁止されていると云われました。友達が自殺したという報道だけではなくて、生徒自身も学生生活を半分否定されているみたいな扱いなんですね。21日に教育委員会会議で入試をどうするか決定する。それで市役所の前で21日の昼集まるうということになりました。

そこにはなんと300名くらい集まったのです。もちろん保護者だけではありません。市高教であるとかいろんな団体も合流したのです。マスコミは、入試中止、入試中止と報道しました。保護者、卒業生、生徒、教員、市民みんな桜宮高校のこと考えている人集まるうよと言って、27日の土曜日、「エルおおさか」に、54人の部屋に170人を超える人が来ましてね。



その会議では、今まで先生が手をあげたりしたのを見逃していなかったかとか、生徒の自殺についても、様々な要因があって自死を選んだのでは、とか、さまざまな議論となりました。だけど、それを防ぐにはどうしたらよかったのかと。やっぱり体罰は許されへんということを中心にみんなで一致しよう。どの生徒も自分の子としてかかわっていこうというそういう話が4時間にわたってされました。素晴らしい会議でした。まとまったものが以下の5点です。

- ① 桜宮から「体罰」をなくす、生徒の自殺と真剣に向き合う、その取り組みには生徒を主人公にして、保護者にも発言、検討の機会を求める。
- ② 在校生に対するあらゆるバッシングから生徒を守り、市教委と学校が責任を持って、心のケアを実施するように求める。
- ③ 新普通科として実施する試験で入試する新入生に、体育系2科の実質を保證するようなカリキュラムを編成することを求める。
- ④ 市教委の文書による在校生へのクラブ活動禁止措置は違法であり、直ちに撤回して再開させることを求める。

(P・2へつづく)

(P・1からつづく)

- ⑤ 教員総入れ替えなどという乱暴な措置は断じてとってはならない、この措置は桜宮高校を全く違う高校にするに等しいものだから、直ちに改めて、適正配置を求める。

要求というのは必ずそれを実現する筋道を求め、実現する筋道が見えれば、自分はその筋道で動きたいということになるものです。私は部外者ですけど、仮の代表になって市教委に要請をやりました。極めつけはこの言葉だと思います。

「私たちは、この(体罰をなくす)取り組みは、貴委員会の指導、助言を得て学校の構成員である教職員、生徒、保護者が体罰に正面から向き合って、体罰をなくすために力を合わせるべきだと考えています」

これがみなさんの本当の思いです。一緒に学校をよくするという「参加、共同、自治」です。

- 橋下介入の柱は3つでした。①入試は中止せよ。②クラブ活動は禁止する。③教職員は総入れ替えだ。これらは保護者が立ち上がったことで、すべて打ち破られたのです。

「桜高に学ぶあなたへ」贈る手紙を3年生の最後の登校日にまきました。全文をぜひ読んでください。(添付の手紙を参照してください)

何通もの感謝の手紙メールを頂いています。

このたたかひの到達点をどう総括するかが大事だろうと思います。学校改革するという基盤はどこにあるかという議論ですね。行きついたのは、生徒が主人公だということです。そして市民も共同して学校の自治を守って改革しようということでした。

総括して言えることは、「参加・共同・自治」の精神を確立してはじめて改革は実現するんだということです。そして、現実にそれができるんだということを経験は教えてくれました。

私は現場というものは尊いもので、現場の人たちとともに現場を守り、現場の要求をかかげてたたかえば、どんな権力であっても勝てるなあというふうな自信を持たせてもらいました。私にとっていい経験をしました。少しでも多くの人に知ってもらいたくて、いろんなところで話をさせてもらっています。参考になりましたらと思います。

(文責・事務局)

カット挿入



講師の伊賀興一さん

## 感想

桜宮高校事件は同じ高校生の子どもの持つ親として心を痛めていただけにしっかり事実を解明してほしい。保護者・教員などの声が報道されず、橋下市長の言動ばかりを誇張して取り上げるマスコミに腹がたちます。

わが子は同じ都島区の都島工業高校生。イザという時、意見の言える場に参加するためと思いPTAの委員になりました。

損保ジャパン 平川みゆきさん

桜宮高校の父母たちの、子どもたちのために何ができるかと悩み考え行動されたこと、すごいです。同じ高校生を持つ親として涙が出そうになりました。現場に変革のエネルギーがあるということをお忘れからアカンということですね。

共栄 大西まゆみさん

## 代理店プロジェクト

### 近財へ要請

3月・4月の、みどうすじ総行動で近畿財務局を訪問しました。今年度要請の主な内容は、損保会社の効率化が「保険商品の劣化」につながっているという問題です。「事故で3ヶ月入院し2年間通院治療したが、保険会社の連絡は電話だけで一度も面談はなかった。これで示談していいの不安だ」との声を伝えました。これは「保険商品の劣化」だというのが商品を販売する代理店の問題提起です。

また、店舗の大幅削減によって、自賠責の相談などで契約者・被害者が困っていることも紹介。一人当たり人身担当件数の実態と近畿圏の店舗数削減を把握することを求めました。代理店業務の問題では、保険会社から代理店にシフトされる業務が増えており、代理店の社会的役割が従来以上に大きくなっていることを指摘しました。